

巻頭言

平成 14 年 3 月 1 日、「成育医療」という新しい理念を掲げて国立成育医療センターが開設され、およそ 4 年半が経過しました。成育医療ということばもその理念も徐々に知られるようになりまし
た。大学医学部、医科大学に「成育」と名付けられた講座が目につくようになったのも広く浸透し
始めた結果だと思えます。昨年度、制定された成育医療 10 ヶ年計画も期待通りの成果を挙げつつあ
ります。さらに、今年度の 10 月より厚生労働省からの委託事業として「妊娠と薬情報センター」が
始まりました。こういうものこそ国立成育医療センターが率先して実行しなければならない重要な
事業です。幸い、トロント小児病院の莫大なデータベースを使わせていただくことになり、同時に
既に同様の事業を行っている聖路加国際病院、虎ノ門病院にも協力いただけるようになりました。
当初は試行として世田谷区内からの問い合わせに応じていますが、徐々に範囲を拡大することにな
っています。

研究所でも、平成 16 年に開設された新しい研究所での活動が本格化し、中でも研究所創設以来の
念願であった ES 細胞樹立機関になるべく、手続きが進められています。

さて、平成 17 年度の国立成育医療センター年報・業績集ができあがりました。例年のように診
療に関する諸統計数値、各部門の活動状況、調査・研究業績が収載されています。毎年、本センタ
ーの経営をはじめ研究業績が伸びているのは喜ばしいことです。母子医療を含む成育医療を取り巻
く環境は少子化が深刻化するなかでも、厳しい現実にとさらされています。われわれが成果を益々挙
げるとともに、それらを内外に発信することによりこの領域の医療が各方面から注目されることが
最も重要なことだと思えます。この意味からもこの年報・業績集が広く目に止まることを期待した
いと思えます。

国立成育医療センター
総長 秦 順一

平成 18 年 12 月